平成20年10月3日

貧酸素水塊速報（2008年）

【発行】○ 千葉県水産総合研究センター　　千葉県農林水産技術会議
【協力】　神奈川県水産技術センター　　内湾底びき網研究会連合会
千葉県環境研究センター　　東京都環境局
第三管区海上保安本部　　○ 千葉灯標モニタリングポスト
国立環境研究所
（今回の速報は"○"の機関の観測データを使用して作成しました）

平成20年9月29日観測結果

貧酸素水塊は内湾中央部を中心に分布しており，内湾南部はほぼ解消していました（図1）。縦断ラインでの貧酸素水塊の厚みは，海底から数メートル程度であり，9月16日と比較するとかなり薄くなっていました（図2）。このため，貧酸素水塊の規模は10%程に減少しました（図3）。

青潮は見られませんでした。しかし，船橋～千葉市地先は貧酸素水塊の湧昇により，表層のDOがやや少なくなっていました（図1,2）。規模がやや縮小したものの，底層にはまだほぼ無酸素な水塊が見られます。引き続き，青潮の発生や干潟域の貧酸素化に注意が必要です。

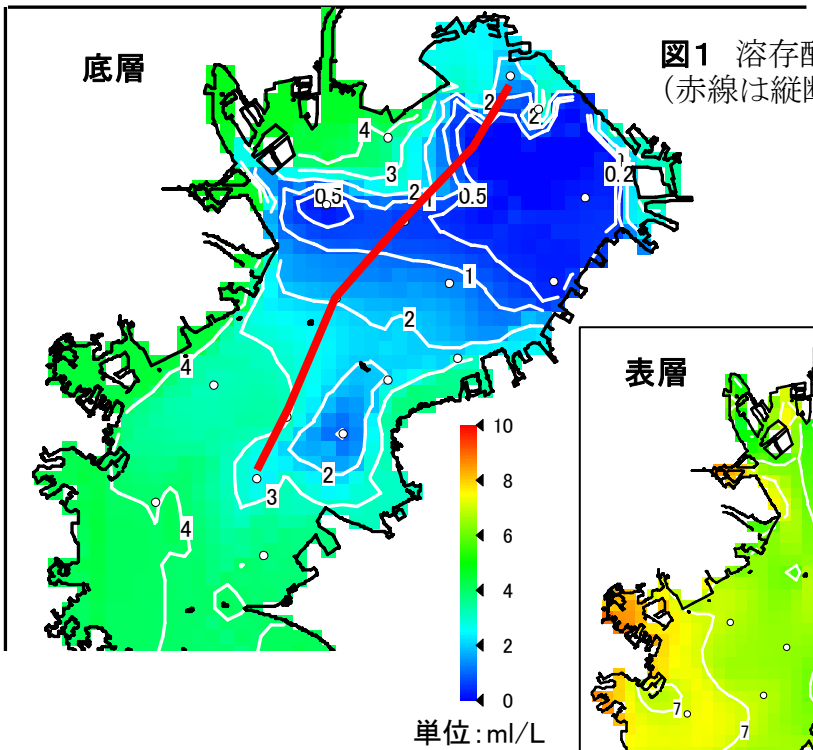

図1　溶存酸素量分布
（赤線は縦断ライン）

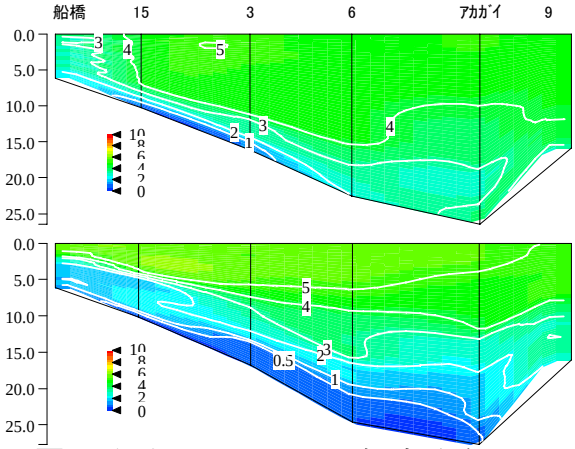

図2　縦断ラインでのDO鉛直分布
（上：9月29日，下：9月16日）

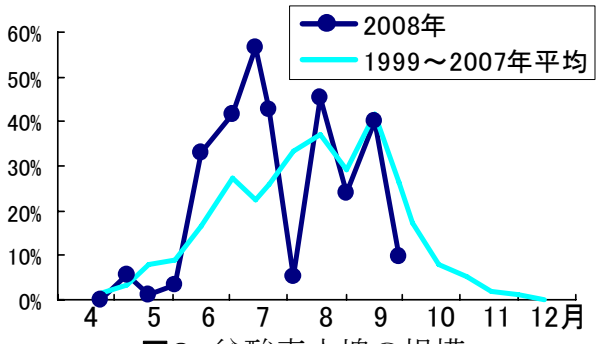

図3　貧酸素水塊の規模